



むかし かわべ **昔、川辺にたくさんあったヤナギやヨモギが、** いま **今ないのはなぜ**

**ヤナギやヨモギは、川原が好きな植物**

ヤナギは、水辺のような水分の多い所が好きな植物です。ヨモギも、川が運んできた、ねん土が多い所に生えます。ヤナギやヨモギなどが多いのは、自然のままの川原といえます。そんな川原の川の水は、すんできれいなはずで

**ヨシやガマがあるのは、少しよごれが進んだ川**

家や工場などが近くに増え、人間の出す生活排水などで、川が少しずつよごれてくると、水あかや「も」がふえ、川底にどろなどがたまりはじめます。そして、川岸近くの水の中には、ヨシやガマなどが、しげるようになります。そうすると、風や日光のあたり方も変化し、ヤナギが生えていた所の土の性質も、少しずつ変わってきて、ヤナギより強い植物が、まわりにふえてきます。やがて、後からきた強い植物のほうにふえ広がり、ヤナギはなくなってしまうことがあります。

**川やまわりの環境で、生えてくる植物は変わる**

川原に人がたくさん出入りするようになったり、車を乗り入れたりすることが増えると、地面もかわいてきたり、栄養分が少ないあれ地になったりします。そのため、あれ地に強いアレチノギクなどの植物や、ふまれても強い、オオバコやツメクサのような植物がふえてきます。

こうなると、川の水のよごれも、さらに進んでいると思われます。川原の草木で、川のよごれぐあいも、あるていど、わかるのです。(監修・矢野 亮)

